

教育実践例 英語の語彙等に関する学生の意識
—英語学の視点から—

佐々木 隆

プロローグ

大学の英語教育において英語学の視点から学生の行動や活動を見た場合、どのようなことが意識されているのかを実際の授業等でのアンケートや学生からの質問や疑問をまとめ、教員側の対応等をまとめ考察した。

1 英語辞書の取り扱いについて

学生の英語辞書の活用についてはこれまでも論じてきたが⁽¹⁾、英語学習者にとって英語辞書の活用は必須であるはずだが、その意識は決して高いとは言えない。大学2年生の3クラス(102名)に対して、「英語辞書の使用アンケート」を実施した。対象の学生は英米文学科、国際コミュニケーション学科といったような英語を専門とする学科所属の学生ではない。

英語辞書の使用アンケート

- Q1 あなたはふだんどんな英語辞書をメインに使っていますか。
- A 電子辞書 B 紙辞書 C スマホ等の内臓辞書
D オンライン辞書 E その他(具体的に)
- Q2 Q1で回答した辞書について。
- A 自分で選んで購入した。
B 家にあった。兄弟姉妹のお下がり。
C 進学のパレゼント(卒業祝いを含む)
D 高校で指定されたものを購入又は支給された。
E その他 具体的に記入してください。

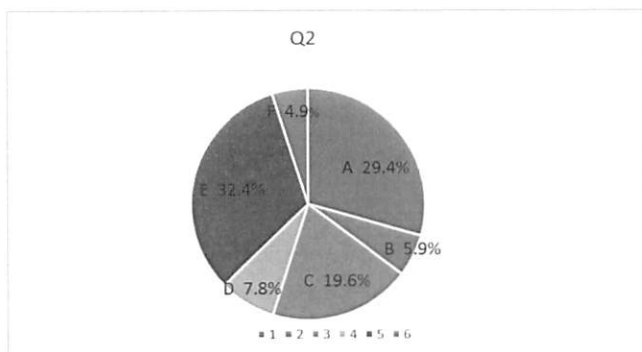
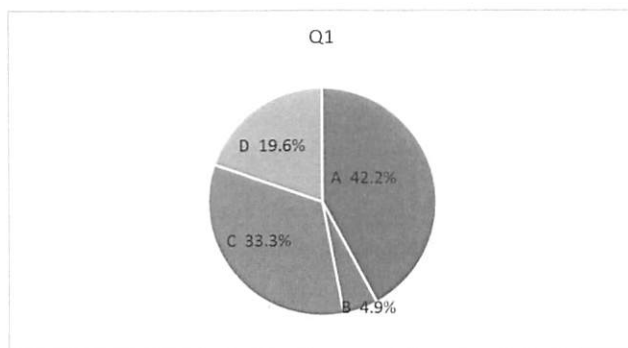
以上、2つの質問に回答してもらった。回答のなかったものはFとして

集計したまとめたものが次の表である。

	A	B	C	D	E	F	合 計
Q 1	4 3	5	3 4	2 0	0	0	1 0 2
Q 2	3 0	6	2 0	8	3 3	5	1 0 2

2017年4月14日に実施。大学2年生に対して実施 英語の選択必修科目

「Q1 あなたはふだんどんな英語辞書をメインに使っていますか」では複数の辞書のタイプを併用している場合には、メインにしているものを記載するように補足説明した。「Q2 Q1で回答した辞書について」に対する「E その他 具体的に記入してください」はQ1でCとDで回答としたものがEへ回答している場合が多かった。



1 = A、2 = B、3 = C、4 = D、5 = E、6 = F

当初の推測では紙辞書の利用者はほとんどいないのではないかと考えられたが、少ないとは言え全体の 4.9%あったことは意外であった。もうひとつ意外であったことは、スマホの内臓辞書を利用している者はある程度予想していたが、オンライン辞書の利用者が 19.6%あったことだ。アンケートでは具体的な辞書名の記載はさせなかったが、紙辞書の利用者が具体的にしているものはいわゆる大学受験等で利用するというよりは高等学校での学習辞典レベル、収録語数で 5 万語前後もので、カラー印刷されているものであった。こうした学生は当然のことながら、高等学校時代からのものを踏襲していることになる。英語に関してあまり強い関心を持っていなければ、できるだけ今手元である物で済ませようという姿勢があるかもしれない。補完的にオンライン辞書などを利用しているのではないかとと思われる。

オンライン辞書の利用者が意外と多かったのは 2 つの理由が考えられる。デジタルネイティブ世代であるため、ネットへの依存度が高いということもあるが、大学 2 年生ということから、大学 1 年生の時にオンライン辞書の便利さを知ったという可能性があることだ、授業中に weblio 英和・和英辞書を紹介したところ、すでにこの存在を知り、活用していた学生が各クラスで 5 人以上いた。

Weblio 英和辞典・和英辞典とは

Weblio 英和辞典・和英辞典は、研究社『新英和中辞典』『新和英中辞典』を中心に 79 種類の英和辞典・和英辞典、502 万語の英語と 451 万語の日本語、合計約 953 万語を一度に検索できる、国内最大級のオンライン英語辞書です。英語の意味を英和辞典で調べられるだけでなく、豊富な英語の用例や、英語の発音も参照できます。基本的な英単語の意味・用例から、専門的な英語の意味・訳語まで調べることができる、英語の学習に最適な英語辞書です。

Weblio 英和辞典・和英辞典の主な特長

複数の英和辞典や和英辞書から、英語を一度に検索して意味を表示します。

英語でも日本語でも検索できます。英単語の場合は英和辞典が、日本語の場合は和英辞典がヒットします。

本文中の英語や日本語から、その言葉の意味を解説している英和辞典・和英辞典の記事にリンクしています。

英語のイディオムや成句の意味を英和辞典で調べることができます。

「ランダム表示」では英語や日本語の解説をランダムに選択して意味を表示します。

Weblio 英和辞典・和英辞典は、こんなときに便利です

とにかく英語の収録語数が多い英語辞書で意味を調べたいとき

英語の専門用語の意味や訳語を調べたいとき

英和辞典と和英辞典の機能を使って意味を調べたいとき

英語の意味を調べると、解説文中の英語や日本語の意味も調べたくなる時⁽²⁾

大学1年生の時に「Weblio 英和辞典・和英辞典」を授業中に紹介され、それ以降利用しているということだ。このオンライン辞書は無料であるという点が大きい。大学がすでに wi-fi 環境を整えていることからこの wi-fi を利用することで利用者の経済的な負担がなくなる点が大きい。スマホ内蔵とオンライン辞書の活用で全体の 47.1%を占めているこの現実には英語学習者の意識としては安易な選択肢であると判断せざるを得ない。

スマホ等の内蔵辞書の利用は単語の意味だけを調べるのであれば、手軽さから言っても便利であるが、英作文などのような英文全体の中での使い方や文法的な事項について確認する場合には十分に対応することはできない。手軽さの点ではすぐに調べられるという利点はあるものの、それは旅先等や外出先などでの対応として考えるべきだろう。しかし、英語学習でスマホ等の内蔵辞書で済ませるような事態はそれが英会話を

中心とする内容であっても、好ましいとは言えないだろう。特に大学生は英語を専門にする学部学科でなくても、今後専門的な内容の英文に触れる機会が触れることを考えれば、一目瞭然のことである。

2 高等学校までの英語教育と学生の語彙の意識

筆者が担当する大学の英語の授業では概ね、90分を教科書、補助教材、デジタルフラッシュで進めている。⁽³⁾ デジタルフラッシュの中で次のような単語の問題を出題した。日本語を英語に直す問題である。

(1) 頭痛	→	headache	スムーズに回答
(2) 歯痛	→	toothache	スムーズに回答
(3) 腹痛	→	stomachache	スムーズに回答
(4) ひっかき傷	→	scratch	ヒント後に回答
(5) 刺し傷	→	stab (wound)	回答率はよくない
(6) 切り傷	→	cut, scar	cut はすぐに回答

最初は辞書を使わずに考えてもらい、その後に辞書を使って回答してもらった。(1)～(3)は関連性もあることから、ache さえ思い付けば比較的スムーズに回答できた。腹痛は口頭では回答できるものの、スピーキングに自信のない学生も多くいた。この中で(5)は辞書を活用して初めて回答できる者がほとんどであった。筆者が注目していたのは「(4) ひっかき傷」である。「スクラッチ」は宝くじを代表に、いわゆるくじ引きで、10円硬貨でこすることが多く、「スクラッチ」という表現はよく知られている。しかし、「ひっかき傷」＝「スクラッチ」＝scratch と結びつく学生はほとんどいなかった。しかし、ヒントとして「10円硬貨」と言えば半分以上の学生はすぐに反応し、10円硬貨でひっかく動作を入れるとほとんどの学生が回答できた。辞書を調べずに scar をすぐに回答した学生はごくわずかであった。高等学校で習ったか聞いてみると、『パ

イレーツ・オブ・カピリアン』のような海賊の出てくる映画が好きで、その時にこの単語を知ったといった理由であった。

また、最近によく harassment ということがよく言われるため、略語として「セクハラ」「パワハラ」「モラハラ」「マタハラ」などを省略しない英語で書く問題を出題すると、時代を反映してかほとんどの学生が解答することができた。「マタハラ」はスペリングが正しくない解答が多く見受けられた。

セクハラ sexual harassment
パワハラ power harassment
モラハラ moral harassment
マタハラ maternity harassment

ここで“harassment”がどんな意味を持っている単語であるかを聞くとなかなかいい解答が出てこなかった。これはそれぞれの用語を単独で知っているだけで、根本的に「ハラスメント」(harassment)自体を捉えていないことが多い。「悩まされていること」「いやがらせ」といった意味を捉えていれば、単語をもっと自由な発想で使うことが可能となろう。これは先に取り上げた「～痛」と同じだ。また、「ハザード」(hazard)なども同様である。ゲーム及び映画で『バイオハザード』(*Biohazard*) (映画タイトルは *Resident Evil*)で生徒や学生にはなじみがあるものの、hazard の意味自体を理解していない場合が多い。

3 教職課程での学生の反応

教職課程の英語科教育法Ⅰ(2年前期)では履修者に中学校や高等学校で使用した教科書や学校で副教材として使用した教材を持参してもらっている。以下は其中で学生への質問等からまとめたものである。

(1) 発音記号

筆者が学生の頃はまだ電子辞書はなかった。現在の電子辞書は音声機能があることから、単語の発音をこの音声機能を利用することで確認することができる。また、同様に外国人教員（ALT）などの制度もなかった。私立の進学校でなければまだ中学・高等学校で外国人がいない様な時代であるが、現在ではそういうことはない。しかし、新出単語の発音をどのように確認するか。

『中学校学習指導要領解説外国語編』（文部科学省、2008年7月）の「3 指導計画の作成と内容の取扱い」には次のような記載がある。

音声の指導については、実際に英語の発声や正しい発音の仕方を理解させ、十分に練習をさせる必要がある。その際、特に日本語との違いに留意し正しい英語の音声が身に付くように指導していく必要がある。また、視聴覚機器を活用したり、ネイティブ・スピーカーの協力を得たりなどしながら、継続的な指導をしていくことが大切である。

発音表記については、特に指導する表記方法や学年に指定はないが、あくまでも音声指導の補助として利用することを念頭に置く必要がある。発音表記は、生徒にとって実際の音声を学習する橋渡しの役割をつとめ、また、自学自習へとつながる利点はあるが、発音表記そのものの詳細な指導に偏りすぎて生徒の過度の負担にならないよう配慮する必要がある。⁽⁴⁾

『高等学校学習指導要領解説外国語編英語編』（文部科学省、2009年12月）では中学校のものよりももう少し踏み込んだ内容になっている。

(2) 音声指導の補助として、発音表記を用いて指導することができること。

外国語の音声を習得するには、ネイティブ・スピーカーの発音を聞き

たり、視聴覚教材などを活用して、実際に外国語の音声を聞いたり、外国語の発音を模倣しながら練習したりすることが基本である。しかし、実際の音声と発音表記との関係を理解し、発音表記に慣れ、それを見て音声を再現することができるようになれば、音声の習得はより容易なものとなる。また、自学自習の有効な補助手段ともなる。このため、「発音表記を用いて指導すること」も可能であることを示している。ただし、あまり専門的に詳しく指導することは生徒に過度の負担をかけることとなるおそれがあるので、基本的な表記について、必要に応じて指導するよう配慮することが大切である。⁽⁵⁾

発音記号について生徒への指導の有無やその方法についてはかなりあいまいな記載である。では、実際の中学校や高等学校では発音記号の指導はどうするのであろうか。教職課程の学生が履修する英語科教育法Ⅰを履修する学部2年生7人に聞いてみたところ、発音記号の指導は受けていないということだった。従ってどの学生も発音記号は読めない。発音記号の学習は一般的には英語学（概論）や（英語）音声学といった授業科目で扱われることが多い。電子辞書では音声機能があり、辞書が発音してくれるが、実際に初見の単語の発音をために辞書の音声機能を使用しては確認しないと言う。音を出せないことが多いからである。教職課程の学生は本学では選択必修科目の英語学概論で発音記号について学ぶ機会があるが、英語科教育法においても発音指導の項目で、生徒に教えるための発音記号の学習ではなく、教員として発音記号を知ることの利点について教授した。同じ発音をする単語等を列挙するには発音記号を知っていると、既知の単語はもちろんのこと、初見の単語であっても簡単に列挙することができる。

例

tum bum girl first heard early work worse world

現場の教員は生徒の理解度を高めるために類似例をその場で提示できるかどうかは指導上大きな利点となろう。発音記号の理解が高まれば、ある程度スペリングから発音を推測できるようになることも大きい。教職課程履修者に 30 分程度であるが、英語特有の発音の記号と単語のスペリングを列挙すると、発音への意識が高まると共に、これまで辞書は単語や熟語の意味を調べる、例文を活用するという以外にこうした発音への意識も高まった効果が見られた。電子辞書における音声機能の有無に係らず、発音記号は音楽で言えば楽譜であり、楽譜が読めれば初見でも楽曲を弾くことができる。教職課程履修者には特に高等学校で使用していた教科書を持参してもらった。その中で発音記号の一覧が掲載されていたものは *Discovery: English Communication I* (開隆堂) の 2012 年 1 月 25 日検定済のものだけであった。しかし、実際に授業で発音記号を扱うことはなかったという。

(2) 「as~as I なのか as~as me か」「~than I なのか~than me か」

教職課程を履修している学生の授業では英文の意味がわかることよりも、英語の構造を理解しているか、また、教職志望の学生が生徒等に説明することを前提にして考えた場合にはどのように説明するかを意識して英文を取り扱う必要がある。以下のような順で学生に問い掛けてみる。

1 中学校・高等学校ではどのように習ったか。

→ as~as me, ~than me で習った。学生の中に付け加えて次のような説明を行うものが 1 名あった。

→ as~as I am, ~than I am のようにしてもよいと習ったことはあるが、自分は me を使っている。

2 中学校の教科書で事例

中学校の教科書では as you, than you, as your father, than your father, as Tony, than Tony のように主格と目的が同一にな

るような例文が多く使用されている。

これはあえて文法的な解説を避けるためにいわゆる口語表現を優先した指導とするためと考えられる。

(3) 比較級(-er, more～)と最上級(-est, most～)

比較級及び最上級ではどのような場合に-er, est となり、どのような場合に more, most を活用するのかを教職課程履修学生に質問したところ、全員が同じ回答であった。「長い単語(形容詞、副詞)の場合には more, most を付けるように習った」という趣旨のものである。次に「長い単語」とはどのくらいになると、どのくらいの文字数になると長いのか」と言った質問をすると、特に基準はなく、見た目や「先生がこの単語は長いから more, most を付けるように言ったから」というような内容であった。筆者が中学・高校生頃の頃もやはり同じように習った。学校文法特有の指導方法である。『中学校学習指導要領解説外国語編』(文部科学省、2008年7月)には以下のような解説である。

(㊦) 形容詞及び副詞の比較変化

<形容詞の場合>

原級に-er, -est の付くもの, more, most の加わるもの及び不規則な変化をするものを指導する。

tall · taller · tallest

easy · easier · easiest

beautiful · more beautiful · most beautiful

good · better · best

<副詞の場合>

原級に-er, -est の付くもの, more, most の加わるもの及び不規則な変化をするものを指導する。

fast · faster · fastest

slowly · more slowly · most slowly

well · better · best ⁽⁶⁾

実際の教科書には次のような記載となっている。

Discovery: English Communication I

比較表現 2 つ以上の物や人を比べるには、原級・比較級・最上級を使います。

Jesse was older than my dog. (比較級)

The fire was getting bigger. (比較級)

Jesse was the kindest dog in the world. (最上級)

※more, most をつけて比較級、最上級を表す形容詞や副詞もあります。⁽⁷⁾

B ()内の語を適切な形に変えましょう。

1. This bike is (old) than that one.
2. Your computer game is (exciting) than mine.
3. George gets up the (early) in his family.
4. This is the (interesting) movie of the five. ⁽⁸⁾

奇しくも学生が回答した「長い単語」というのはパターンプラクティスや語尾が-ing, -ful, -ous となる形容詞やこうした表現を含む副詞の場合には more, most を利用すると言って覚えさせるような事になるだろう。

しかし、教職課程を履修する学生はこうしたことだけでは教員の理解として当然不足である。ここで出番なのが辞書である。英語学や(英語)音声学を習えば、音節という概念を習うことなり、そこでこの「比較級(-er, more~)と最上級(-est, most~)」の問題は解決することになる。通常、2音節以上の形容詞や副詞の場合には more, most を利用するとい

うことになり、辞書を活用すればそれで済むのであるが、実際の英語教育現場では辞書で確認することもないかもしれない。また、そうした指導をしても学生の記憶に残っていないことになる。教職課程を履修する学生は一般の学生よりも英語に関する関心も高く、中には英検2級取得者もいることから、すでに基礎的な英語力を備えているものもいる。しかし、こうした英語の構造上の問題については知識を持ち合わせていない。

教職課程履修者が高校生の時に学校から指定された参考書がある。鈴木希明編『高校総合英語 Harvest』（桐原書店、2012年1月、第3版）の「形容詞と副詞の比較変化」ではまず4つに型に分類している。

- 1 規則変化：er, est 型
- 2 規則変化：more, most 型
- 3 不規則変化
- 4 2種類の比較級・最上級がある語

「2 規則変化：more, most 型」には次のような説明が付されている。

2音節の語の大部分と3音節以上の語、および語尾がlyで終わる副詞は、原級の直前にmore（比較級）、most（最上級）をつける。⁽⁹⁾

具体的な例として以下の表を掲載している。⁽¹⁰⁾

	原級	比較級	最上級
2音節で語尾が y, er, ow, le 以外の語	care-ful	more careful	most careful
	hon-est	more honest	most honest
	self-ish	more selfish	most selfish
3音節以上の語	im-port-ant	more important	most important
	dif-fi-cult	more difficult	most difficult

語尾が ly の副詞	quickly	more quickly	most quickly
------------	---------	--------------	--------------

学習指導要領の考え方からすれば、こうした表は教科書に記載することはふさわしくないが、いわゆる副教材と呼ばれるもので補完することとなろう。昨今のように英文の構造、英語の構造、文法的事項よりも「話す」という技能を重視するとなれば、奇しくも学生が回答した「長い単語」の場合には more, most を利用すると言う指導も現場ではやむを得ないが、教員の理解としては上記のような表のような考え方は当然必要である。学習指導要領解説でもこうしたことまでは掲載していない。

(4) 英語の構造と品詞の理解

教職課程の学生は単に英文の意味がわかればよいということでは指導者としての資質としては不足することになる。英語に対する理解度を深めるためには英語の構造の理解を深めること、品詞にこだわる必要があるだろう。その意味では自身でこうした考察を深めることに必要なものが辞書の活用ということになる。単に単語や熟語の意味を調べるのではなく、説明等を読むことでこうした英語の構造を知る大きな手掛かりとなる。

上記の ...er than I am. ...er than me などの場合が典型的な例となろう。単に口語表現と片付けるのではなく、構造的には接続詞としての than、前置詞としての than という理解となる。as...as I am, as...as me も形容詞や副詞を修飾する品詞は副詞となるため、最初の as が副詞、そして後ろの as が基本的には接続詞となろう。

英語の構造について中島文雄『英語学とは何か』(1991)の中で、変形生成文法による英語の構造で“Call me a taxi.”を例文に上げ次のように述べている。

この文は「私にタクシーを呼んでくれ」という意味にとられるが普通であるが、また、「私をタクシーと呼んでくれ」という意味にもとれる。そこで、言われた方が、ふざけて、“OK, you are a taxi.”と答えることができる。学校文法では、この文を、第一の場合には第四文系、第二の場合には第五文型として、区別するであろうが、文型による意味の違いを区別することはできない。⁽¹¹⁾

中学高校の教員にとって、何をどこまで生徒に教えるかはかなり重要である。また、教職課程履修の学生にはイエスペルセン(Jens Otto Harry Jespersen, 1860-1943)に代表される伝統文法、すなわち学校文法というものがある。この学校文法の長所と短所については内田恵「教育のための英文法」(2009)が次のようにまとめている。

[長所]

- a. 細かく知れば知るほど、英語の醍醐味がわかる文法である。
- b. 日本語と共通の文法用語に補助されて、型を理解する。そしてそれを利用した反復練習により、英語を機械的に理解することができる。
- c. 例えば前置詞などの分類はじめ、百科事典的な法則集を理解できれば、英文の使用に 対する、ほぼ万能な対応が可能となる。

[短所]

- d. 無味乾燥な法則集は、学習意欲をそそられるような内容ではない。
- e. 網羅的な反面、品詞や構文相互の関連性について、言及が少ない。
- f. 構文が羅列方式で、まとまりはつきにくい。五文型と構文との相互関連分類が求められる。⁽¹²⁾

一般に伝統文法（学校文法）のあとに登場したチョムスキー（Avram Noam Chomsky, b.1928）が提唱した生成文法の登場により、伝統文法では説明がつかない領域をカバーできるようになった。しかし、現在の英語教育が口語表現中心に進められている場合、こうした学校文法や生成文法の利点を十分に活用することが難しい。しかし、教職課程履修者はどこまで何を知るべきだろうか。そして、さらに教員としてどこまでを生徒に教えるべきかという次の問題も発生してくる。

（５）アメリカ英語とイギリス英語

現在の英語教育では World Englishes という考え方のもとに進められている。しかし、中学・高校の教科書はあえて言えばアメリカ英語を主として進めている。今回、英語科教育法の授業であえて、イギリス英語を主流とした速読用の英文を取り上げた。学生が反応した単語は“torch”である。前後の英文は省略する。実際の英文は以下の通りである。

“We want to watch these films,” said Wilma. ⁽¹³⁾

“Dad came in with a torch.” “There’s been a power cut!” he said. ⁽¹⁴⁾

“films” も出てくるが、なぜかこれには反応はなかった。“torch”は「たいまつ」の意味もあり、停電になって、部屋の中に「たいまつ」を持って登場することになり驚きがあり、辞書で確認して、イギリス英語とアメリカ英語で表現が違うということが説明に記載されており、これで学生は納得がいったという経緯があった。これ以外にも“get a drink”という表現があるが、アメリカ英語であれば“have a drink”で表現することになろう。”これを機会に授業においてアメリカ英語とイギリス英語の単語の違いについて紹介した。

アメリカ英語とイギリス英語（単語編）

日本語	アメリカ英語	イギリス英語
懐中電灯	flashlight	torch
映画	movie	film
エレベーター	elevator	lift
紙幣	bill	note
伝票	check	bill
1階	first floor	ground floor
2階	second floor	first floor
手荷物	baggage	luggage
テイクアウト	take out	take away
サッカー	soccer	football
セーター	sweater	jumper

特に最近の学生は実際にアメリカやイギリスに行った時の経験や映画やYoutubeなどの動画を見てそこで聞き取った英語での疑問などがあったようで、実体験が伴うと、その注意力や理解度は格段に高いものとなっているようだ。活字による知識の積み上げは確かに事前の準備としては有効であるが、実体験で得た知見はその後も高い意識が継続されているようだ。

上記の例以外にはスペリングの違いや文法等の違い、表現の違いもあることは周知の通りである。単語の違いだけを紹介する場合、スペリングの違いだけを紹介する場合、また表現の違いなどを紹介するなど、ケースバイケースにより対応が望ましいのではないかと思える。また、発音の問題となると、特にオーストラリア英語ともなれば、ei と ai の発音がアメリカ英語と異なることはよく知られている。今やALTをはじめ、英語を母語とする native speaker の英語教員が増えているが、こうした教員から英会話を主とする指導を受けた学生たちは発音の違いは敏感に

感じ取っていることも事実だ。

教職課程を履修している学生には、根本的に英語に関して関心を持ってもらうこと、その中での経験等からの「気づき」を重視したいと考えている。学生には何も知らせず、イギリス英語を主流とした速読用の英文を取り上げ、実際に速読させ、そこから気づきが生じた。教授者があ一定の意図をもって教材を選択し、それを活用し、学生の反応がどうであったかを検証することは授業科目の達成目標や今後の授業計画を立案する上で大きなプラスとなることは言うまでもないことだ。

エピローグ

一般の学生の辞書に対する意識、教職課程履修者の学生の発音、語彙や文法事項に関する意識などを授業中の学生の質問等から、教職課程履修者はどの程度まで英語に対する意識を高めるべきかを考察した。単に学生自身の英語に関する理解度を高めることが目的ではなく、将来、英語教授することを考えている教職課程履修者の学生はどこまで英語に関する意識を高めることが重要かということが、大きな課題だ。中学・高校生として英語を学び、今、教職課程を履修、これまでの学校教育で学んできた英語に関する知識が、必ずしも英語学という学問を通して見て場合には抜け落ちている部分があるということだ。

実践的コミュニケーション重視ということから口語表現が主流となっていることから、英語教員自身が口語表現にのみ関心を持つようになっては困るということだ。中学高校での実際の授業を越えて英語教員として持ち合わせるべき英語に関する理解はさらに高いところにあるべきである。その意味でも英語の構造をしっかりと理解する英語学の知識を持ち続けていくことがより深い英語理解を背景にした授業展開ができるものと信じる。

注

- (1) 拙著『英語教育の行方』（イーコン、2011年4月）、「英語教育の現状報告—授業の実践例から—」（『武蔵野教育研究』第3巻第4号、武蔵野教育研究会、2017年2月）、「教職課程の英語学に関する一考察」（『武蔵野教育研究』第3巻第5号、武蔵野教育研究会、2017年3月）で取り上げた。
- (2) 「Weblio 英和辞典・和英辞典」（<http://ejje.weblio.jp/>）（2017年4月21日アクセス）
- (3) 拙著「英語教育の現状報告—授業の実践例から—」、pp.1-8.
- (4) 『中学校学習指導要領解説外国語編』（文部科学省、2008年7月）（http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2011/01/05/1234912_010_1.pdf）（2017年4月23日アクセス）
- (5) 『高等学校学習指導要領解説外国語編英語編』（文部科学省、2009年12月）、p.47.
（http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2010/01/29/1282000_9.pdf）（2017年4月23日アクセス）
- (6) 『中学校学習指導要領解説外国語編』（文部科学省、2008年7月）、ただし、頁表記なし。
（http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2011/01/05/1234912_010_1.pdf#search=%27E4%B8%AD%E5%AD%A6%E6%A0%A1%E5%AD%A6%E7%BF%92%E6%8C%87%E5%B0%8E%E8%A6%81%E9%A0%98%E8%8B%B1%E8%AA%9E%27）（2017年5月2日アクセス）
- (7) *Discovery: English Communication I*（開隆堂、2012年1月25日検定済）、p.31.
- (8) *Ibid.*, p.34.
- (9) 鈴木希明編『高校総合英語 Harvest』（桐原書店、2012年1月）〔第

- 3 版])、p.260.
- (10) Ditto.
- (11) 中島文雄『英語学とは何か』(講談社、1991年5月)、p.227.
- (12) 内田恵「教育のための英文法」(『静岡大学教育学部研究報告』教科教育学篇、第40巻、2009年3月)、p.89.
- (13) Series created by Roderick Hunt and Alex Brychta. *The Power Cut*. Oxford University Press, 2007: 2011 printed in China by Imago, p.3.
- (14) Ibid., p.10.

【キーワード】英語学、語彙、英語辞書、英文法、World Englishes

執筆者一覧

佐々木 隆 武蔵野学院大学教授

武蔵野教育研究 第3巻第12号

2017年10月1日 発行

武蔵野教育研究会 編集・発行

〒350-1328

埼玉県狭山市広瀬台3丁目26番1号

武蔵野教育研究会事務局

武蔵野学院大学 佐々木隆研究室